

## 「走り去った女」

パトリア・カーロン 訳 富永和子

紹介者：榎本博康

### [紹介]

ガブリエルは、新婚の夫を亡くしたばかりだった。ある朝、新聞に溺死した十四歳の少女の記事があった。現場から走り去る白い服の女が目撃されたという。ガブリエルは偶然、事件当日に付近を訪れていたが、自分と結び付けては考えていなかった。

所が死んだ少女の母親からの電話がある。走り去った女は誰だか黙っている代わりに、金を無心するものだ。ガブリエルは自分が疑われていることを知る。そして彼女は、自分に関係がないことを主張しつつ、目撃者を訪ね、死んだ少女がアルバイトをしていた玩具店を訪ね、少女の両親に会う。その結果は不器用なものとなり、疑いは深まり、村中の話題になっていく。

いとこのフィルは彼女を助けようとするが、彼も彼女を疑いだす。



### [感想]

これを皆さんが読む頃(2000年10月)には、シドニーオリンピックがとっくに終わっているが、これを書いている今は、柔道の田村が金メダルを獲得してガッツポーズをしている所だ。

と、いうことで、オーストラリアの作家を紹介したいと思いました。パトリア・カーロン (Patricia Carlon, 1927生まれ)はワグガワグガで生まれ、今はシドニーに住んでいるという。この作者も、「フロントランナー」の作者と同じパトリアだ。ヴィクトリア女王の孫がパトリア王女と名づけられてから流行った名前とか、やはり英国連邦の影響が感じられる。

彼女は主に1960年代を中心に15冊のミステリーを上梓しているが、本書の初版は1966年に英国で発行されている。アメリカでの発行は1998年、日本では1999年である。処女作の「ささやく壁」が最高傑作とされており、本書は第2作だが、今後日本でも次々と紹介されそうだ。

事件の舞台のララピンタ溪流は、アリス・スプリングスの近らしい。作中で、単に町と呼ばれているのは、この町と思われる。わずか2万7千人の人口だが、飛行場を持ち、中部オーストラリアの拠点である。砂漠性の気候で、寒暖の差は激しい。

ララピンタ・トレイルという遊歩道がアリス・スプリングスを起点として、12区間、全長250キロメートルで計画されており、1997年までに4～7区間を除く150キロメートルが整備されている。北オーストラリア最高峰のZeil山 (1581メートル)を含む、最高の風景を堪能できる道であり、かなり整備されているようだ。トレッカーやバックパッカーの来訪を想定している。区間の途中は宿がないので、荷物は自分で持って行く必要がある。古代アボリジニの遺跡もあり、是非訪問したい所だ。年間2千人以上が訪れるということだが、1日あたりにすれば5～6人でし

かない。

さて、小説とは関係のない所から入ってしまったが、最初私がこの本を読んだ時は、この舞台が中部オーストラリアだとは全く思わなかった。アメリカの小説でも、インディアン地名が出てくるので、ララピンタとはそのような地名と思ってしまったのだ。それは、作者がララピンタという地名、これは走る水という意味らしいが、それ以外は詳細な地域の描写がなく、一般的な田舎の村という設定で描いているからでもある。

でも嵐の近づく前のあやしげな夕焼けの風景は、この地域に特徴的なものなのだろうか。中央オーストラリアの、砂漠性の大地の上の、水蒸気の希薄な大気を、はるかに真横に射し込む太陽の作り出す夕焼けは、私達が日本で見る、水蒸気に散乱された夕焼けとは違うのだろうか。真っ暗になる20～30分前の、黄昏時とか、逢魔時とか呼ばれる時間帯での目撃談が、主人公のガブリエルに、あなたこそが、その走り去る女だと、真実味を持って迫ってくる。

この小説の中で、走り去る女の様子が、繰り返し語られる。現場から、白い服で、金髪の女が走り去った。それは町のうわさになり、尾ひれがついていく。ガブリエルが追いこまれる過程を緻密に描き続ける。目撃の老婦人は、さらに強調する。「彼女を見たたん、何かあったと感じたの。雨が降りそうなだけでは、女はあんなふうには走らないもの。あんなに全力で、必死にはね。」

心理面に重点を置いた、異色のサスペンスだ。次々と事件の展開を追う作品とは違い、しっかりと読んでいかないといけない。繰り返し語られる走る女のイメージ、しかしこの強い夕焼けの中では、どの色も薔薇色に見えることに人々が気付くに至り、白い服の金髪の女というイメージはどんどん曖昧になっていく。

アリス・スプリングスの夕焼け、そのうちに絶対に見てみたい風景だ。

(初稿2000.9.15)

[リバイバル感想]

この小説の理解には、ここに引用したエアーズロック（現地名ウルル）の朝夕の姿を想起すれば容易だろう。この神秘的な風景を知っていれば、本書のトリック、または人々の誤解がすなおに分かる。地元の作家ならではの着眼であると感心する。



Uluru/Ayers Rock (Travel Donkey サイトより引用)

そしてララピンタ・トレイルであるが、全区間が完成したようである。

そのサイトによれば、全長は223kmだ。オーストラリア観光局によると完歩には10～12日かかるという。毎朝、毎夕、この朝焼け、夕焼けに浸ったら、何か純粋になれそうだ。尤もこの年齢で純粋になってしまったら、生きづらい余生になるだろうが。

<https://www.larapintatrail.com.au/>

(2021.6.07)